

## 第42回日本血液事業学会総会の開催にあたって

総会長 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター 中島一格

第42回日本血液事業学会総会を、平成30年10月2日（火）から4日（木）の3日間、幕張メッセ国際会議場において開催いたします。

本総会は関東甲信越ブロック1都9県の11血液センターが力を合わせて準備してまいりました。ご協力いただいた関係各位にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

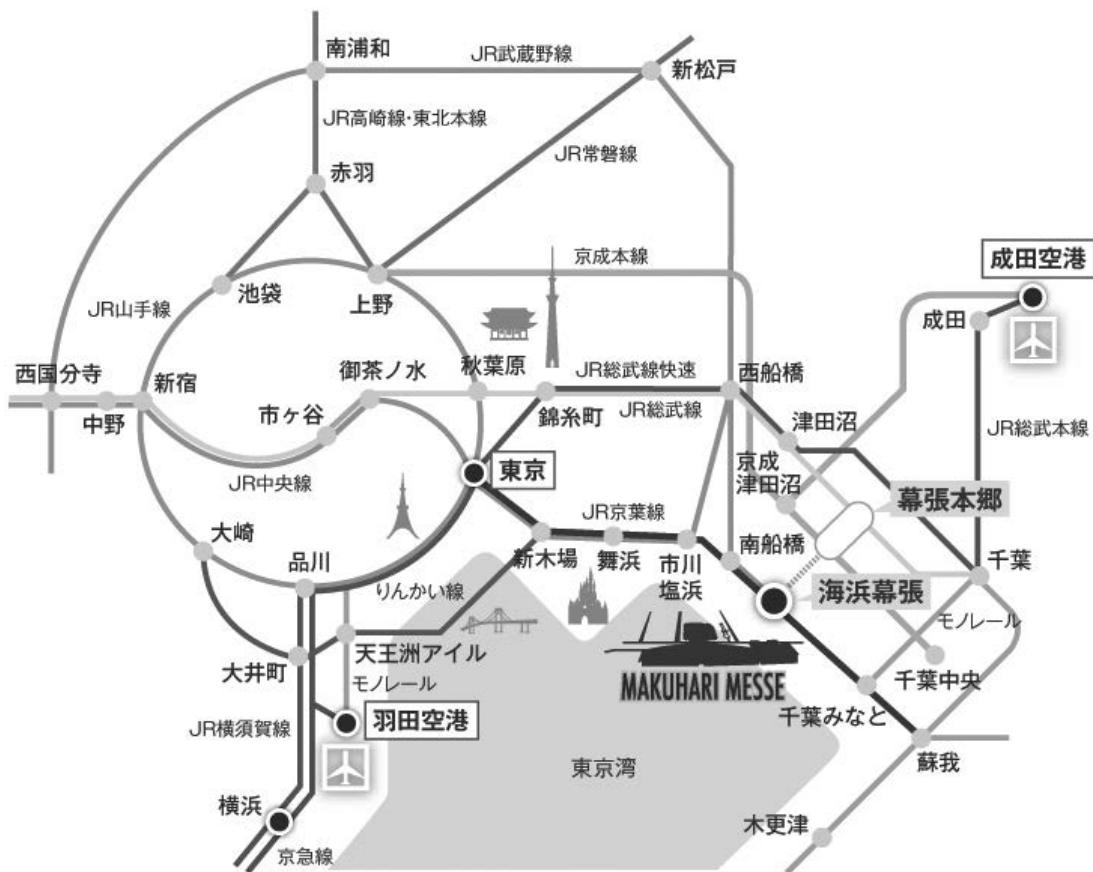
昭和27年に日赤の血液事業が始まって以来66年の歴史は苦労と困難の連続でしたが、先人の涙ぐましい努力で今日世界に誇れるような事業に発展させることが出来ました。そして、平成24年の広域事業運営体制への移行は大きな事業運営の転機でしたが、今まで、血液事業は変革期、事業の転換期を迎えていました。これまで我が国の血液事業は、戦後の人口増加と高度経済成長及び医学・医療の進歩、発展に伴って事業規模を拡大して参りました。しかしながら、我が国はすでに人口減少社会となり、献血可能人口の減少とともに、老齢人口の増加で血液需要は増加するとの予想に反し、輸血用血液の供給量も減少し始めました。我々はこれまでに経験したことのない事業規模の縮小という新たな事態に直面しており、社会や医療の変化に適応して、10年、20年後も血液事業を高いレベルで安定的に運営していくために事業の変革が求められています。

事業運営広域化の後、血液事業は一時厳しい財政状況に陥りましたが、幸いその後の全国的な改善活動の結果、血液事業運営も財政も速やかに改善されました。また、昨年の第41回日本血液事業学会総会のテーマは「カイゼン」とされ、多くの活動報告、研究発表がなされました。今回の総会はそれらの改善活動の成果を受け継いで、この事業を将来も持続可能なものとし、また、めまぐるしく変化・発展していく社会、時代に適応できるよう、様々な課題に挑戦するという意味で、総会のテーマを「持続と変革—カイゼンの先への挑戦—」と致しました。

本総会は準備の日程がタイトで、6月7日の一般演題の登録締め切りは延長しませんでしたが、それにもかかわらず全国から310題という多くの演題登録を頂きました。皆様の熱心なご参加に感謝申し上げます。指定演題としては、総会長講演のほかに、特別講演2題、特別企画4題、教育講演7題、シンポジウム7題、ワークショップ5題、ランチョンセミナーとティータイムセミナー計12題と充実した内容になっています。また、学会発表の緊張をほぐし気分転換していただくために、第2日目の夕刻には室内樂のミニコンサートも予定しています。皆様の活発な研究発表と討論、交流の3日間となりますよう願っています。

10月初旬の関東は暑さも大分収まってよい気候になると思います。首都圏は他の地方のような特色ある魅力は少ないかもしれません、この機会に千葉マリンスタジアムやディズニーランドをはじめ、会議場近くの旅も楽しんでいただければ幸いです。全国から多くの参加者をお迎えできるよう、心よりお待ちしております。

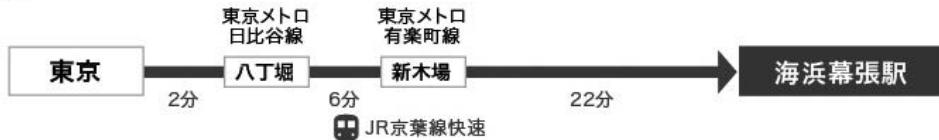
## 交通のご案内



## 交通のご案内

### ■東京から電車でご来場の場合

#### ① 京葉線経由

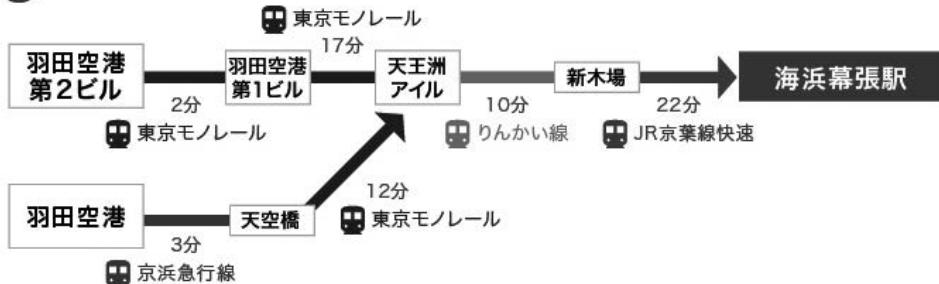


#### ② 総武快速線経由(幕張本郷駅～路線バス)

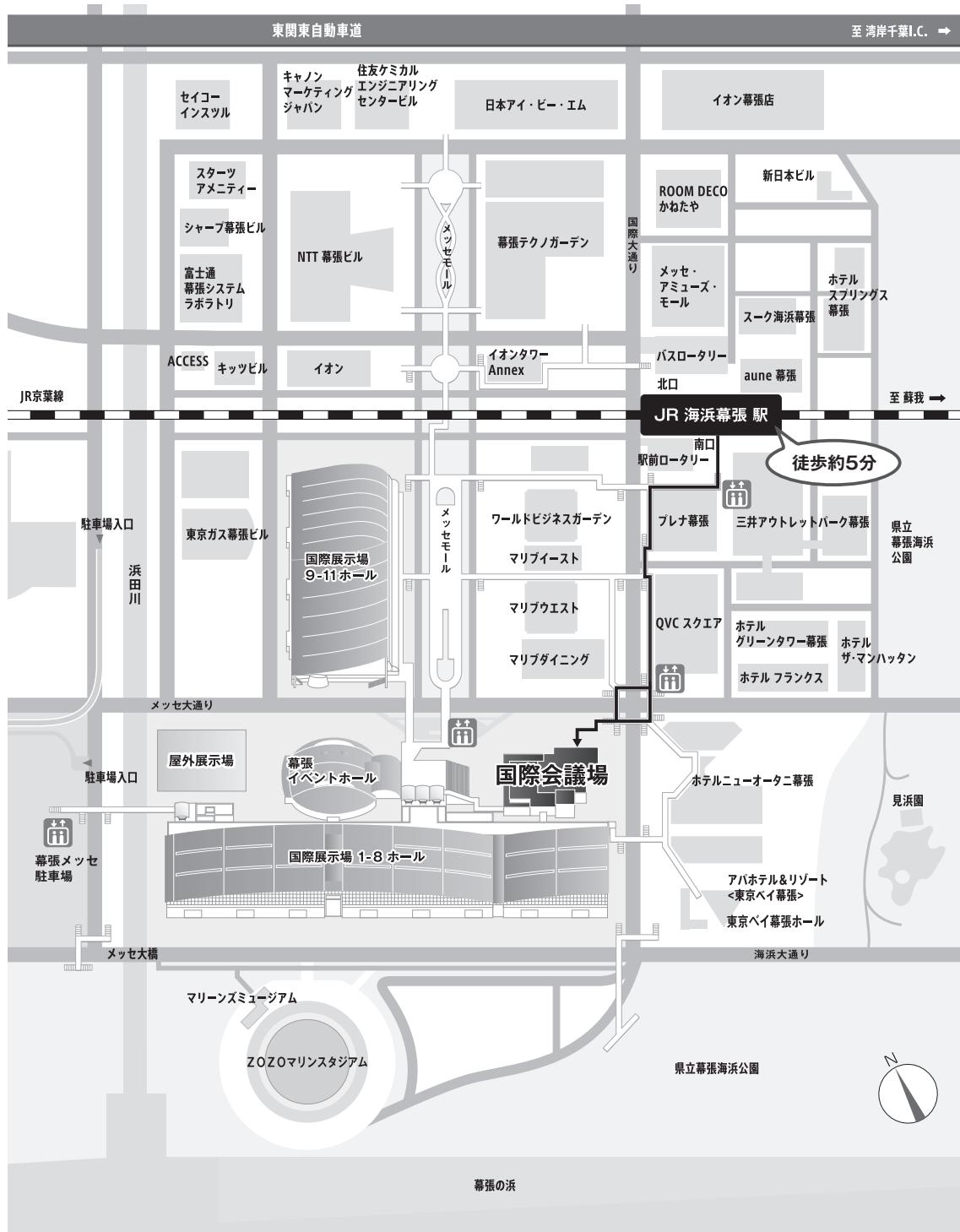


### ■空港から電車でご来場の場合

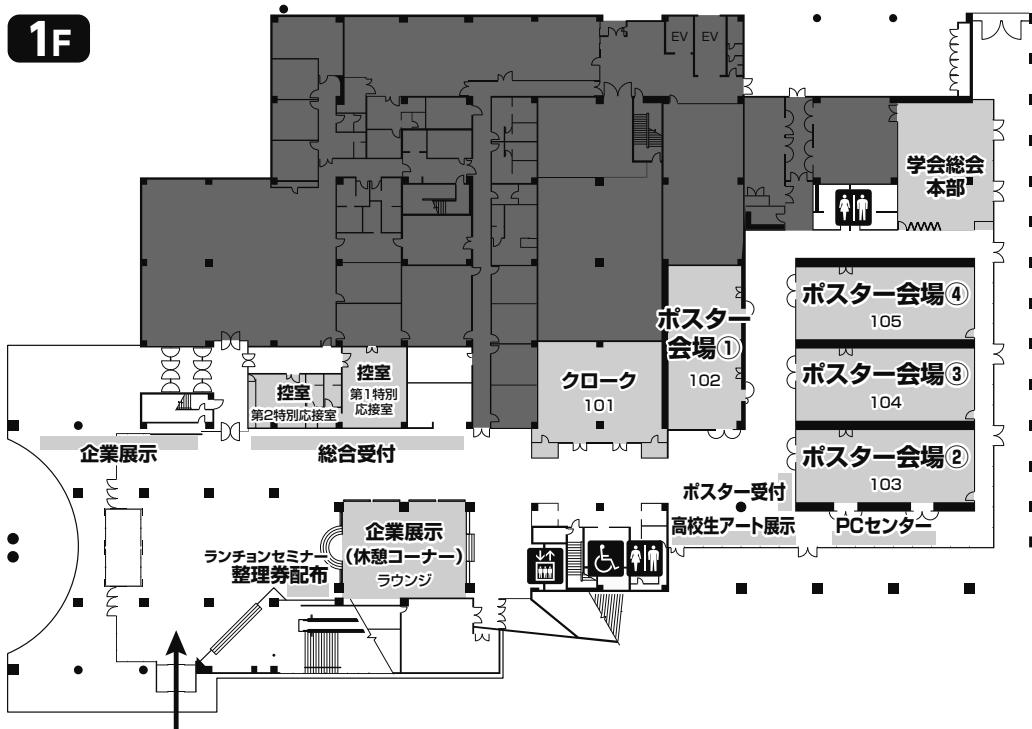
#### ① 京葉線経由(海浜幕張駅～徒歩)



## 会場のご案内



## 会場のご案内

**1F****2F**

### 会場のご案内

3F

